

2011（平成23）年度収支決算の概要について

青山学院財務部

2011（平成23）年度決算報告書（学校法人会計及び収益事業部会計）は、2012年5月24日開催の理事会で承認されましたのでここにご報告いたします。

収支決算の概要は以下のとおりですが、詳細は、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表等をご覧ください。

消費収支についてご説明しますと、帰属収入合計が347.0億円、消費支出の合計が420.9億円となり、その結果、帰属収支差額は73.9億円の支出超過となりました。当初予算段階では、4.9億円の収入超過を見込んでおりましたが、退職給与引当金の特別繰入や資産処分差額を計上したため、このような決算となりました。

消費収入（帰属収入）の主なものは、授業料などの学生生徒等納付金268.0億円、国や地方公共団体からの補助金30.0億円、入学検定料などの手数料19.5億円、資産運用収入8.5億円です。

消費支出の主なものは、人件費249.5億円、教育研究経費114.5億円、管理経費26.7億円、資産処分差額27.6億円（うち有価証券評価差額25.8億円）です。

教育研究経費には、東日本大震災被災学生に対する学費減免費用1.3億円と奨学金6千万円が含まれております。同様に管理経費には被災受験生に対する入学検定料免除費用1,700万円が含まれております。人件費には、退職給与引当金特別繰入額57.2億円を計上しております。これは、文部科学省通知に基づき、退職給与引当金の計上基準を従来の55%から100%に変更したことによるもので、当年度限りの特殊要因と言えます。

資金収支に計上される施設関係支出の主なものとしては、大学相模原グラウンド新設工事4.1億円、大学2号館・9号館耐震補強工事等3.2億円、大学相模原キャンパス図書館自動搬送システム増設1.7億円があげられます。当初予算段階では大学17号館新築工事費用が見込まれておりましたが、東日本大震災の影響による工事遅延により完成が翌期まで延期となったことから、補正予算において減額し、2012年度予算に繰り延べております。大学17号館完成延期に伴い、人文・社会科学系6学部1、2年生の教育課程の青山キャンパスへの移行も1年延期となりましたが、2013年度に向けて着実に準備を行っております。

青山学院は「伝統と未来が会う、緑と文化溢れる空間」「安全・安心な教育環境」「サステナブル（持続可能）なキャンパス運営体制」という3つの方針のもと、魅力と特色のある総合学園を可能にするため、今後も青山キャンパスの再開発事業を進めてまいります。

私立学校を取り巻く環境が、少子化の進展と長引く経済の低迷により大変厳しいものとなっている状況下、青山学院は、これまでも財政基盤強化のため、法人においては収益事業の拡大、各学校においては受託研究等の外部資金導入など帰属収入の増加を図り、支出面では内部努力の徹底を堅持するとともに、限られた原資で最大限効果が発揮できるよう努めてまいりましたが、今後も従来以上に厳正な予算執行に努めるとともに、中・長期的な展望を持って財政運営を行ってまいります。

以上